

# 新年を迎えるにあたり

病院長 小林 辰也



新年あけましておめでとうございます。


2022年を迎え、年始のご挨拶をさせていただきます。

一昨年から始まった新型コロナウイルス感染は収束を見ることなく、昨年は一年を通してコロナと向き合う年となりました。第5波では中信地区でも多くの方が感染され、様々な自粛やマスク着用など皆様におかれましてもご苦労が多かったと思われまます。当院ではコロナ感染患者様の治療は行っておりませんでした。松本モデルと言われた地域内での病院ごとの役割分担の中で、積極的に脳卒中診療に当たって参りました。また、ワクチン接種が開始となってからは、当院でも積極的にワクチン接種を実施いたしました。少しでも地域の皆様のお役に立つことができなければ幸いです。ワクチン接種率の上昇に伴い、新型コロナウイルス感染が下火となり、世の中がwithコロナへとシフトし始めた矢先、新たな変異株が見つかり第6波は避けられないのではと危惧しております。

刻々と変化する状況の中、当院の果たすべき役割についてその都度考えることを余儀なくされます。しかしながら、常に基本となるのは「地域の皆様のお役に立てる病院」であることだと考えております。当院は脳神経外科病院でありますので、コロナ禍にありましても積極的に脳疾患の治療、予防に努めて参る所存です。昨年より当院では「お家に帰ろう」を合言葉にしております。患者様が住み慣れたご自宅で生活できるためにどのようなお手伝いができるか、以下のようなことを考えております。

## 1. 急性期治療のさらなる充実

脳卒中の治療は時間との勝負です。早期に治療が開始できれば後遺症なく自宅へ退院し、以前の生活にもどることも可能です。一例として血栓回収療法があります。脳の太い血管が詰まった場合、重度の麻痺や言語障害が出現することもあります。当院ではカテーテルを用いて詰まった血栓を除去する血栓回収療法を積極的に行っております。早期に実



施することにより後遺症なく退院される方も多くいらっしゃいます。血栓がうまく回収できない場合も勿論ありますが、その場合でもバイパス手術によって脳血流を補うことができるよう昼夜を問わず対応しております。これまで同様、「24 時間 365 日断らない救急」を徹底し積極的に治療して参ります。

## 2. リハビリテーションのさらなる充実

令和元年4月1日には回復期病棟を開設し、急性期治療から自宅へ帰るまで、一貫して当院で行うことができるようになりました。おかげさまで回復期病棟も軌道に乗り、順調に稼働しております。当院回復期病棟におけるリハビリでの改善率や在宅復帰率は全国的に見ても高い水準にあると自負しております。しかしながらこれらは改善が得られた方の割合、おうちに帰ることができた方の割合に過ぎません。100%となっていない以上、ご自宅に戻ることができなかつた方がいらっしゃるのも事実です。そのことを常に肝に銘じて、さらなる改善に努めます。

## 3. 在宅復帰後のサービスのさらなる充実

ご自宅に退院されるにあたり、退院後に安心して生活できることも非常に重要なことだと考えております。身体機能の維持のためにはデイケアや訪問リハビリテーション。病状の安定や急変時・体調不良の際の対応には訪問看護。これらを上手にご利用いただき、安心してご自宅で過ごして頂けるようさらなるサービスの向上に努めて参ります。

コロナウイルス感染症はまだまだ注意が必要な状況ではありますが、今後も感染予防対策に努めながら、地域の皆様のお役に立てるよう更なる改善を行っていきたいと思います。

昨年もこの場で述べましたが、ソーシャルディスタンスは保ちながらも、心は患者様・ご家族に寄り添い、必要な時には手を差し伸べることができるような病院でありたいと考えております。本年もどうぞよろしくお願いたします。